

必携

現在設置されているバルク貯槽用安全弁の交換作業時における留意点について

1. 取り扱いを間違えると事故・災害の原因となるので・・・バルク貯槽の安全弁には、次の2種類が存在するので熟知すること。

1) 連結弁方式：この方式は、安全弁を取り外すと自動的に元弁が閉止する構造となっている。
(貯蔵能力 1,000 Kg未満 に適用)

なお、ガス抜き孔等のある新型の安全弁に交換するのがよい。

2) 手動弁(玉形弁・ボール弁)方式：この方式は、手動で元弁を開閉しなければならない構造となっている。
従って、安全弁を取り外す前に、手動で元弁を閉止してから行うこと。 (貯蔵能力 1,000 Kg以上 に適用)

2. 安全弁の交換作業は、緊急事態を想定して・・・二人作業で行うことが望ましい。

3. 安全弁交換作業の詳細手順及びその留意事項については・・・

「JLPA バルク貯槽用安全弁の検査及び交換要領書 高圧ガス保安協会 推薦 平成18年10月1日改正

社団法人 日本エルピーガスプラント協会 技術委員会審議」

を参考にするのがよい。

4. 販売事業者は、安全弁交換作業の実施について・・・管理及び確認を行う必要がある。

従って、この管理者は、この必携を必ず『交換作業』に説明し、事故再発防止の注意を促すものとする。

1) 連結弁方式の場合

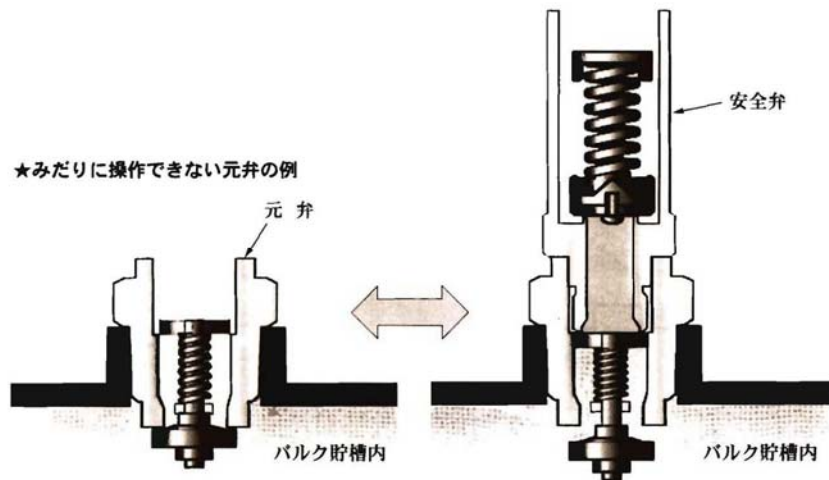


図1 元弁が閉じた状態
(安全弁を取り外した時)

図2 本弁が開いた状態
(安全弁を取り付けた時)

2) 手動弁(玉形弁・ボール弁)方式の場合

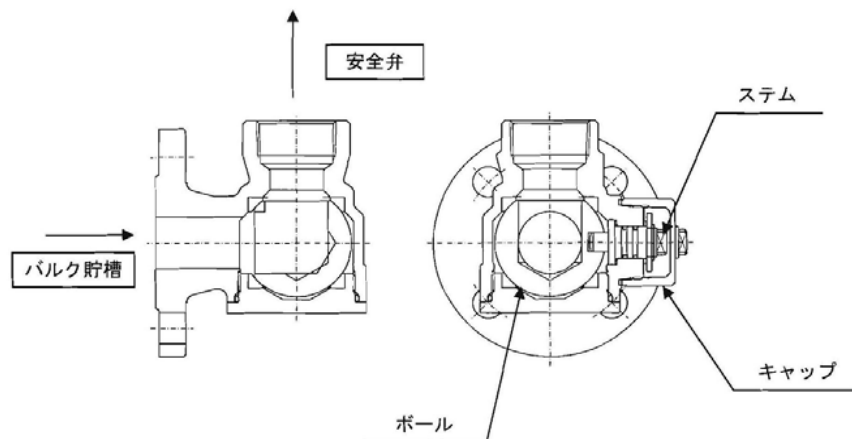


図3 安全弁元弁(ボール弁)の構造

手動弁方式の場合の安全弁取外し作業

安全弁元弁を「閉」にする手順

作業1 キャップ頭部にあるスパナ掛けに平10スパナを掛け、反時計回り(左回り)に回し、安全弁元のキャップを外す。(図4)



図4 安全弁のキャップの取外し作業

作業2 平10スパナをステムに掛け、「しまる」と表示のある方向(時計回り)にステムを回転させ、安全弁元弁を「開」から「閉」にする。(図5)

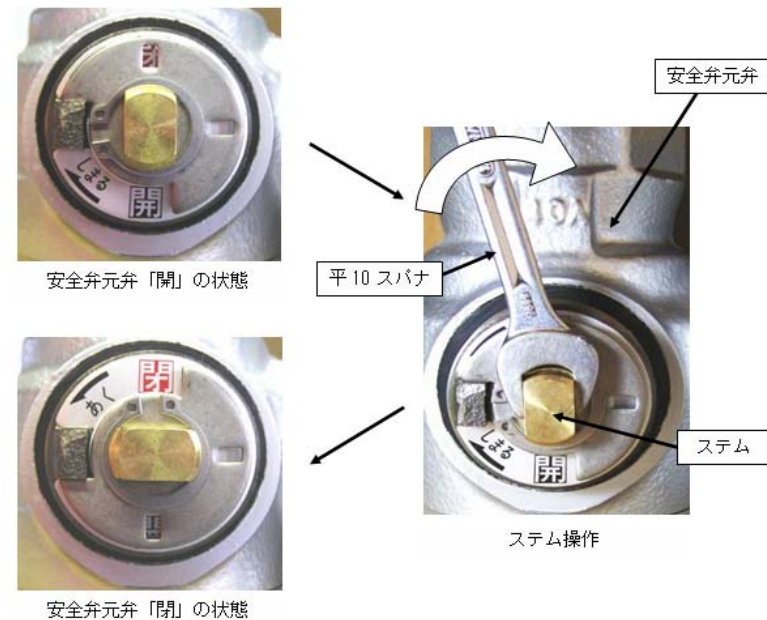


図5 安全弁の「開」から「閉」作業